

尾形慶子

立候補の決意

原発をなくし公正な社会を作るために、東海地方で中心となって緑の党を拡大しようと、2次予備選に立候補することを決意しました。

一昨年の震災と原発事故は、夫の駐在先であるブラジル・サンパウロで知りました。原発は漠然といやなもの・怖いものと思っていたのに、何もしてこなかった自分を深く後悔しました。私たちの世代の負の遺産を次の世代に残してはいけないと思い、残りの人生は、原発を失くすことと緑の党を作ることに捧げようと決心しました。本当に原発を失くしたければ、政治は避けて通れず、緑の党が必要と考えたからです。

緑の党については、17年前に、夫についてヨーロッパに駐在していた時に知りました。地球のため、環境のために活動する「青臭い」政党があるということに感動しました。一見、賢そうな人は経済発展、開発、効率化を言い、「環境じゃ食べていけなからね」と嘲笑します。しかし、行き過ぎた金儲け主義が地球を苦しめ、日本は原発の大事故と言う罰を受けました。

経済至上主義は、実は愚かだったのです。自然と共生する慎み深い生き方が、結局いちばん賢いと私たちは思い知りました。私は、東海地方の人々とともに、輸出産業に頼らなくても「豊かに」暮らせる道を探していきたいと思います。特に、子どもを育てる女性や、未来をあきらめない若い世代に寄り添い、心豊かでスローな生活を学びながら、緑の党を東海地方で拡げ、その声を国会に届けたいと思います。

特に実現したい政策

1、 脱原発基本法

昔、学生運動していた時に原爆の恐ろしさを知り、原子力の平和利用と言われても漠然と嫌なものと感じていました。にもかかわらず、自分の人生しか考えず何もして来なかったことを深く後悔しています。原発を54基も作らせてしまったのは、私たちの世代の責任だと思います。残りの人生を脱原発に捧げたいと決意しました。少なくとも、脱原発基本法を制定させなければ、死んでも死にきれません。

提案された脱原発基本法案では、12年後の2025年3月11日までには実現させるとなっています。もちろん「即時廃止」でない点が不満ではありますが、原発を廃止する期限を明確にすることを重要と考えます。

2、 子ども被災者支援法

福島の子どもの置かれている状況は、一刻の猶予もありません。しかし、彼らが避難できないのは、避難しても彼らと家族に精神的経済的さまざまな困難が待っているからです。そんな折、子ども被災者支援法は、避難してもしなくても、被災者の権利を認める点が画期的です。せつかく可決されたこの法律を実体のあるものにするのが急務です。

3、 女性の平等な権利

理解ある夫を持った私ですが、人生の半分は女性の置かれた不平等に怒る日々でした。特に、労働市場において女性が平等な報酬や待遇を受けるために、あらゆる手段を取らなければなりません。少子化による労働人口の減少がデフレの主要原因ですが、女性がいきいきと労働市場に加わるこそ、経済を活性化させ、後述する子どもの福祉に繋がると信じます。

愛知で女性首長を実現する会が結成されました。職場での不平等、子育てや介護の悩みな

どを解決するためには、政治に女性が進出することが不可欠で、愛知で初めて首長を出す活動は計り知れない意義があると思います。

4、子どもの福祉

子どもたちには、農薬や添加物のない安全な食品を食べ、ストレスなくのびのび成長してもらいたいと思います。いじめや体罰の問題を根本的に解決するためにも、母親だけに子育てを押し付けず、たくさんの人の手にかかって育てる、社会が育てる取組みをたくさん実施していく必要があります。

特に、子どもの貧困の問題を解決するためには、子ども手当だけでなく、保育所を増やすなど子どもを育てながら働く母親・父親を支援することが不可欠です。

5、1次産業の発展が支える地産地消

グローバリゼーションがもたらす世界的な経済危機に左右されない経済を作るには、1次産業の発展による地産地消が、鍵になると信じます。東海地方では、輸出産業に頼り過ぎない地域経済を作ることです。

大企業の利益至上主義に振り回される中小企業や派遣労働者は、いったん不況になると、簡単に切り捨てられます。これが、社会格差是正を拡大させました。特に、若者の人とのつながりの薄さと雇用問題が深刻です。

そんな時、有機農業の発展が大きな希望です。それは安全性だけでなく、自然に囲まれた人間らしい働き方とコミュニティや消費者とのつながりの深まりです。食を地産地消することは、雇用問題や地域経済の活性化の突破口になるのではないかと思います。

プロフィール

55歳の主婦です。一般企業に勤める夫に伴って、ロサンゼルス、フランスのナント、ブラッセルに駐在した経験があり、現在はブラジル・サンパウロに住居があります。何度も一時帰国をして、脱原発運動と緑の党・東海の結成に従事しています。今は、名古屋に住んでおり、こちらの住民票を取って参院選に立候補します。

学生時代は、大阪外国語大学（現大阪大学外国語学部）で自治会活動に従事しました。

卒業後はフェミニストとして、家庭と仕事の両立と女性の地位向上が、私の最大の課題でした。しかし、結婚・妊娠後、法定産後休暇以上を取得することができず、結局退社して専業主婦になり、海外赴任する夫と共にすることになりました。

しかし、せめて子育て後、社会復帰したいと、アメリカ、フランス、ベルギー、ブラジルで英語、フランス語、ポルトガル語の習得に励みました。その甲斐あって、OLや通訳の仕事に就くことができました。

2人の子供が成人・独立した今、後顧の憂いは無くなりました。ただし、孫息子の子育てに協力しながら活動したい、それは子育て世代の思いを排除しないためです。そのためにも、体力と健康状態は極めて良好に保っています。

1957年 三重県四日市市生まれ。大気汚染の中心地・塩浜地区の近くに育つ。

1976年 大阪外国語大学（現大阪大学）ロシア語科に入学、学生自治会で書記を務める。マルクス・レーニン主義や共産圏の政治経済を学ぶ。

1981年 大学卒業後、大手小売業に就職。結婚。妊娠後、退社。

1988年 ロサンゼルスに駐在。その後、フランスのナント、ブラッセルにも駐在。

2000年 帰国後、OL、通訳などの仕事をする。2010年、夫に伴いブラジルに駐在。

HP 用プロフィール (200 字以内)

尾形慶子

- 1957 年 三重県四日市市生まれ。大気汚染地区に育つ。
- 1976 年 大阪外国語大学で、学生自治会の書記を務める。
- 1981 年 大学卒業後、就職。結婚。妊娠後、退社。
- 1988 年 夫に伴い LA に駐在。フランス、ベルギーにも駐在。
ヨーロッパの緑の党に出会う。
- 2000 年 帰国後、OL や通訳などの仕事をする。
- 2010 年 夫に伴いサンパウロに駐在。
- 2011 年 東北大震災・福島第一事故の後、脱原発の運動に加わる。